

平成 18年 11月 24日

各 位

会 社 名 ニ チ ハ 株 式 会 社 代表者名 代表取締役社長 井 上 洋 一 郎 (コード番号 7943 東証・名証各第一部) 問合せ先 執行役員財務部長 南 光 正 (TEL 052-220-5111)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

中間期の業績の動向などを踏まえまして、連結、個別とも平成 18 年 5 月 23 日の決算発表時に公表いたしました平成 19 年 3 月期(自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成19年3月期 通期連結業績予想数値の修正(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日) (単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想(A)	99, 700	8,000	4,500
今回修正予想(B)	97, 200	6, 400	3,500
増 減 額(B-A)	△ 2,500	△ 1,600	△ 1,000
增 減 率(%)	△ 2.5	△ 20.0	△ 22.2
(ご参考) 前 期 実 績 (平成 18 年 3 月期)	93, 832	6, 308	3, 414
前期比増減率(%)	3.6	1.5	2. 5

2. 平成 19 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正(自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 3 月 31 日) (単位:百万円)

			(1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想(A)	85, 400	6, 300	3, 700
今回修正予想(B)	82, 900	4, 900	2,800
増 減 額(B-A)	△ 2,500	△ 1,400	△ 900
増 減 率(%)	△ 2.9	△ 22.2	△ 24.3
(ご参考) 前 期 実 績 (平成18年3月期)	80, 888	5, 866	3, 540
前期比増減率(%)	2, 5	△ 16.5	△ 20.9

3. 上記修正の理由は以下のとおりであります。

平成 18 年 5 月 23 日付公表の平成 19 年 3 月期業績予想 (以下「前回発表予想」) については、当社は、当第 1 四半期に当社グループ主力製品の窯業系外壁材 (以下「外壁材」) 業界全体の出荷数量の回復が遅れたことを理由として、平成 18 年 8 月 2 日の当第 1 四半期決算発表時に、前回発表予想のうち当中間期の業績予想を連結、個別とも下方修正いたしましたが、通期の業績予想については連結、個別とも修正しておりませんでした。

今回、当中間期の実績及び当下半期の外壁材業界全体の出荷数量の現状と見通しなどを踏まえ、以下の理由により通期業績予想について、連結、個別とも前回発表予想を下方修正させていただきます。

(1) 売上高について

売上高につきましては、前回発表予想では、当社グループ主力製品の外壁材について、高付加価値商品を中心とする高級品の販売構成比率の上昇などによる平均販売単価の前期比上昇と外壁材のマーケットである戸建・低層アパートの新設着工戸数の復調を基にする外壁材業界全体の出荷数量の回復によ

る販売数量の前期比増加を前提に売上高を想定しておりました。

しかしながら、外壁材の平均販売単価については、当上期は、外壁材業界全体の出荷数量の回復が遅れ、マーケットが縮小する中で企業間の価格競争が激化し、販売価格が低下したことから、平均販売単価は前回発表予想のみならず前年同期をも下回る結果となりました。当下期は、高付加価値商品を中心とする高級品の一層の拡販や一部商品での価格改定を図るものの、当上期を中心とした販売価格の低下の要因が大きく、通期でも平均販売単価は前回発表予想、前期をともに下回るものと予想されます。

これに加えて、外壁材の販売数量についても、当上期は、当第1四半期における外壁材業界全体の出荷数量の回復が遅れたことが大きく、前年同期比0.2%の微増に止まりました。当下期は、戸建・低層アパートの新設着工戸数の前年比プラス基調を背景に外壁材業界全体の出荷数量は回復が本格化しておりますが、当上期の不振をカバーするには至らないこと、また、当社においても新規大口取引先への出荷の開始や新製品の発売のずれ込みなどの個別要因もあり、外壁材の販売数量は前回発表予想を下回るものと予想されます。以上により、売上高は、連結、個別とも前回発表予想比減収となると予想されます。

(2) 損益について

昨年来推進してきた各種合理化施策によるコストダウン効果の収益寄与や前期に不振であった子会 社の業績改善は当下期も順調に進捗すると見込まれますが、上記の通り外壁材の販売価格が前回発表予 想を下回ることを主因として、損益は、連結、個別とも前回発表予想比減益となると予想されます。

以上